

山行報告

◆雪彦山日帰り山行

日 時：4月22日（日）

リーダー：総括責任者 砂川、A班 舩賀 清、S L 待場節子、B班 L 今山正雄

参加者：19名

★ 雪彦山に登って

尾内

播磨北部の山行のため、柿本さんと私は、現地集合とさせて頂きました。

いつもなら集合時間1時間前には、自宅を出なければならぬところ、現地まで1時間程で行けるというので、楽をさせていただきました。

鹿ヶ壺山荘前の広場でストレッチをし、その後、シルバーコンパスの使い方を実習しました。今までシルバーコンパスの使い方が理解できず、わからないままになっていたのが、実際に使うことができて嬉しかったです。それから、貝塚さんの安全講話を聞いて、雪彦山を目指して出発しました。

橋を渡って、階段を上っていくと、尻壺、五郎在壺、鳥のしこみ等とおもしろい名前が付けられた滝がいくつかあり、最上段の有名な鹿の寝姿に似た鹿ヶ壺へと連なっていました、落差は低く、流れる水も少なく迫力には欠けますが名滝だけあって一枚岩でなめらかに滑るように落ちていく水の流れには引きつけられるものがありました。

40分程行くと千畳平に着きました。名前のとおり広い平地でキャンプ場になっていて、よく整備されていました。小休止をし、小雨が降っていたのでとりあえず、ザックカバーをつけて登ることにしました。

沢沿いに登って行くと、若葉が芽吹きだした雑木林で、庭園のように苔生した石が点在し、芽吹き始めた木々は、雨をうけて露が枝に玉のように連なり、何とも趣のある光景を醸し出していました。しかし、感傷に浸ってばかりはいられません。ぬれた道には、十分気をつけなければなりません。しばらく進むと杉林となり、お天気が悪いので鬱そうとしていました。急な登りが過ぎたころ、雪彦山三角点と大天井岳との分岐点につき、ここでカップを着ました。待っていたかのように雨あしが強くなってきました。

行動記録

場 所	着	発
高砂運動公園		7:30
鹿ヶ壺山荘	8:25	9:00
鹿ヶ壺		9:06
千畳平	9:55	10:03
大天井岳	11:30	11:35
千畳平	12:38	13:10
鹿ヶ壺山荘	13:50	14:00
ゆたりん	14:25	15:40
高砂運動公園	16:25	



尾根に出ましたが、眼下は真っ白で何も見えません。大きな岩がゴロゴロしていて足元はさらに悪くなりました。1歩1歩、慎重に大天井岳へと登っていきました。そんな中ピンク色の淡いアケボノツツジの花が心を癒してくれました。白い拳の花もわずかに残っていました。あとで知ったのですが、雪彦山には、この時期ヒカゲツツジも咲いているとか、見逃したのか、通ったところには自生していないのでしょうか。

大天井岳は通称雪彦山と呼ばれ、祠がありました。ここの方がきっと見晴らしがいいのでしょう。お天気がよければ、登る予定の雪彦山三角点や鉾立山の岩峰さらに播磨の山々が見渡せたでしょうに残念です。

記念撮影をして早々と来た道を引き返すことになりました。雨は止みそうにないので、雪彦山三角点の登頂は断念せざるを得ません。お腹もすいてきましたが、食べるところもないので、千畳平まで一気に下山です。千畳平の東屋で雨をしのいで昼食をすませ、林道を降りて行きました。

最初予定されていた雪彦山三角点、鉾立山、虹が滝コースは、またの機会を楽しみにしたいと思います。

私は、下山途中、思わず、前に転んですねを突き、痛い思いをしましたが、1週間前に、最初登る予定であった雪彦山バス停までを下見に来た時に、大阪の40歳の女性が出雲岩付近で滑落、肩の骨を折って自力で下山できなくなり救助を要請され、ヘリで救助されるという騒然とした場面に出くわしただけに、雨の中、滑りやすい状況での山行であったため、全員の無事の下山を喜び合いたいものです。



★雪彦山山行の感想

田中

雨が心配される曇り空のなか7時半総合運動公園を出発。バスの中で会長から雨になれば予定のコースを変更すると説明がある。鹿ヶ壺山荘の駐車場に到着後ストレッチをし、シルバーコンパスを設定して登り始める。滝壺の形が鹿の寝姿に似ているという“鹿ヶ壺”を通り杉林の間のルートに登る。3年前に西播磨を襲った台風23号の影響か道が崩落している箇所もあり、登山道は荒れていて滑らないように注意しながら歩く。時々鶯の声が迎えてくれホットする。1時間足らずで“千畳平”に到着。ポツポツと雨が当たるが小休止の後出発。ここからは沢を歩く。両側の斜面に転がっているたくさんの岩に苔がびっしりと生えていて初めて見る珍しい光景である。また新芽が出かかった細い枝に水滴がひかり美しい。尾根へ出たところで雨が激しくなり合羽を着る。小休止の後“大天井岳”目指して歩く。ピンクのつつじが咲いている。ここのつつじは木が大きい。11時半“大天井岳”に到着。天気がよければ周りの絶景を見渡せるのに何も見えなくて残念である。記念写真を撮り来た道を早々に引き返す。約1時間で“千畳平”に着く。東屋で昼食後出発地へ戻る。帰る途中にある最近できた温泉「ゆたりん」で汗を流す。17時頃総合運動公園に帰着。

今回の登山道は大変荒れて歩きにくく、しかも雨の中の山行で楽しさも半減といったところであった。

◆大峰・奥駈け道「持経の宿～玉置神社」

日 時：4月27日（金）～30日（月）

リーダー：砂川

参加者：9人

★大峰山奥駈けシリーズ 行仙岳から玉置神社へ 金島

寒い！と思って目覚めたのはテントの中、鶯の鳴き声と石楠花の中を歩いていたと思ったのは夢だったらしい。腕時計は朝5時前である。空は晴れている模様。今山さんの車を葛川トンネルに回すため砂川リーダーと今山さんは早々に起きて用意中。

加古川を4月27日の夜9時出発、真夜中2時過ぎこの白谷トンネルに着いた。小雨の中、急ぎセットしたテント2張りに私たち9名は眠りこけてしまったのです。大峰は春まだ浅く山桜は咲きかけのようです。萌える若葉に白い花が目にしみます。

6時過ぎ今山さん、砂川リーダーの帰りを待ってお湯を沸かし持参のおにぎり味噌汁の朝食をとる。早々にテント撤収、7時いよいよ行仙岳に向いての出発です。池原スポーツ公園で洗

顔を済ませ林道の車止めまで急ぐ。春の山は笑うと言うがまさしくそのとおり、晴れた山の稜線から谷にかけて白く見えるのは山桜と濃い桃色はつつじでしょうか。舩賀さんの号令でストレッチを入念にいざ入山です。大峰奥駈けシリーズ今回で私は5回目の参加です。男性5名女性4名が今回のパーティー、この道は昨年秋に歩いた道、わいわいとはしゃぎながら9時30分には持経の宿に到着、しばしの休憩です。囲炉裏も小屋のたたずまいも懐かしく15分の休憩は瞬間に終わりました。今回は南へ、いよいよ行仙宿に向けて進行です。千年桜を筆頭に大木の林立に私たちは入山の挨拶をし、柔らかな春の奥駈けムードは最高です。一時間ほどで平治の宿に着く。持経の宿より少し小さめ、入り口に西行法師の和歌が記してありました。遠い昔、吉野を旅した法師はこの辺りにも訪れていることに感激をする。若くして逝った私の母は和歌に興味を持ち西行法師に思いをこめていたそう。大峰山行には法師のうたを数箇所で見ました。私にとっては懐かしい母を思い出す山行になったのです。転法輪岳から倶利伽羅岳にくと目の先に大きなアンテナ塔が見えてきました。あれが山小屋のある行仙岳だそうです。怒田の宿跡あたりから

本日最後の急登です。喘ぎ喘ぎの急登を登りつめたところが行仙岳1226米です。午後2時30分予定通りに行仙小屋に到着です。この山奥で囲炉裏にトイレも完備、台所はまきを使って炊くかまどがしつらえてあるのです。今日はこのかまどを使って豆ご飯を炊くことになりました。男性諸氏が30分かかる水場から汲んできた水で夕飯の支度です。かまどは舩賀さんの音頭にあわせて私もお手伝いです。焼肉に豆ごはん、もちろん囲炉裏に火は燃えていて山小屋の最高の一夜になりました。食後のミーティングは

楽しくも明日に備え8時には全員就寝。風のうなる音で目が醒めたのは29日の朝4時です。

行動記録

1日目	着	発
JR加古川駅		21:00
白谷トンネル	2:25	
白谷トンネル		7:15
2日目		
池郷林道車止め	8:15	8:30
持経の宿	9:45	10:00
平治の宿	11:00	11:10
行仙岳	14:00	14:05
行仙岳山小屋	14:30	
3日目		
行仙岳山小屋		6:00
槍ヶ嶽	9:20	9:30
四阿宿跡	10:50	11:00
貝吹金剛	12:30	
花折塚	15:10	
玉置神社	16:55	
4日目		
玉置神社		10:10
湯浅SA	17:45	18:00
JR加古川駅	21:20	



山の中はまだ冬が残っていて寒い朝です。アルファ一米をお湯でふやかしたご飯と味噌汁で朝食。身づくろいを済ませて行仙宿を6時出発です。今日は笠捨山から地藏岳、香精山を経て大峰の行者様の道をひたすら玉置神社まで10時間の行程です。尾根伝いの道とは言えかなりの急登、笠捨山の頂上1352米に着いた時はじっとりと汗。朝日を受けた山々は神々しく光り、向こうの山は薄くぼんやりと春霞です。道端に鳥の骸を見ました。哀れです。鳥（イカル？）はきれいな羽を蓄えたままこの山に消えていくのでしょうか。頭上では四十雀のさえずりが聞こえます。小屋を出発して3時間で地藏岳です。山のすがたから陰しさが伺えます。横掛けの鎖はしごが見えてきました。私たちはシュリング装着がベナを使っの進行、ゆっくりと時間をかけての岩場歩き。砂川リーダーの一举手一投足を真似ての進行です。岩は片足やっど置ける足場でその下は谷です。背中に食い込むザックを気にしながら足元用心、真剣に伝わり歩きの1時間でした。今回はこの地藏岳が一番の難所、全員突破にほっと一安心。



10分の休憩に入る。目の前に見事なつつじ満開に気付く。四阿宿跡（あずま）をとおり菊ヶ池を通過檜ノ宿跡も通過、ピークを越したとは言えかなりの上り下りは続きます。山中に祭られた小さな祠、石仏、祈念の塔婆 行者様の行き交う姿がしのべれます。早くも太陽は真上、春の山とは言え疲れた体には暑く感じるものです。香精山に着いたのが11時半ここで昼食。私は食欲が無く水ばかりの補給です。山中で口になじむのは水と柑橘のみで体力減退はいやおうなしにやってきました。大木の木漏れ日の下、歩きやすい山道なのに疲れてしまうのです。行仙宿から8時間、葛川トンネルへ下山場所岩の口につきました。下りる今山さんに私も加えてもらう。

しんがりに小谷さん。玉置神社まであと2時間歩く6人と別れ3名は葛川の村まで下りる。人が通った形跡が無く腐食した落ち葉をがさがさと踏みしめて下山していく。途中、道跡が消えてなくなり林の中に降りるか崩れかかった道をそのまま行くか迷ったが、ここはやはり山道に行く。下山30分の予定がゆうに1時間をかけて葛川の里におりた。車のあるトンネルまではまだしばらくアスファルト道路を歩くことになる。私は暑さと疲れで無口になっていく。「金島さん、見てみ、オオルリや！夏鳥やで。」と 小谷さんです。小谷さんの指すトンネルの入り口の高い梢にかわい



い姿を見せてくれました。息が吹きかえるような一瞬でした。ようやく今山さんの車に辿り着く。

隠国の大峰山、60歳になってよもや大峰山を歩き通す事ができることなど考えたことも無かった。私には懐かしい母を訪ねるようなこの大峰山シリーズに5回も誘ってくださった砂川リーダー、そして 山行仲間にして下さった皆さんに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。了